

「上野の杜から(44)」

「小泉八雲記念碑」

NHKの朝の連続テレビ小説、いわゆる朝ドラは今や国民的な支持を受けている人気テレビ番組と言っても過言ではないでしょう。目下、放送中のものは小泉八雲夫妻をモデルにした物語です。

御存知のように小泉八雲は本名はラフカディオ・ハーン(1850～1904)といい、英国籍の新聞記者であり、紀行文作家であり、小説家であり、日本研究家であり、英文学者でした。40歳の時に来日。松江で英語教師となり、以後、熊本、神戸、東京と居住地は変わりました。日本人女性の小泉セツと結婚したのを機に家族のために1896年に日本国籍を取得して改名したということです。

八雲は1903年に東京帝国大学文科大学の英文学講師を退任していますが、その後任が夏目漱石だったとは、なにか暗示的な気もしますね。

八雲が残した多くの作品の中で一般に最も知られているのは「怪談」に所収されている「耳なし芳一」の物語でしょうか。



では、小泉八雲と上野の杜とはどんな関係にあるのか、という問いに御返事しましょう。当財団の隣りに「国際子ども図書館」が建っています。その正面入口にむかって右側の前庭に「小泉八雲記念碑」が昭和10年(1935)に建立されました。香川県出身の彫刻家・おぐらういちろう小倉右一郎(1881～1962)が制作した「蜜」の銅像の下に八雲の肖像のレリーフがはめこまれています。また、裏面には八雲の略歴や記念碑の設置された意図などが書かれた碑文が埋めこまれています。

ちなみに撰文は漢文学のしおのやおん塩谷温(1878～1962)、揮毫は英語学のいちかわさんき市河三喜(1886～1970)によるものです。

この記念碑は、詩人として、英文学者として名高い土井晩翠(1871～1952)が、八雲に傾倒していた長男の土井英一(1909～33)の遺言に基づいて建立したとのこと。土井英一は、東北帝国大学在学中に若くして亡くなってしまったのです。

国際子ども図書館は、かつては帝国図書館でしたので、ここなら広く国民に見てもらえるだろうという意図が建立にあたってははたらいていたように思えます。

「蜜」の銅像は天使たちが壺をかかえて集まっている構成です。また、銅像は噴水構造になっていて、建立当初は壺から水が湧き流れていたそうです。なにやら国際子ども図書館にふさわしいイメージがただよっている気がしませんか。



土井英一の父である土井晩翠は東京帝大時代の八雲の教え子でもありました。土井晩翠は「荒城の月」の作詩者としても名が知られていますが、小泉八雲記念碑のすぐ近くにある旧東京音楽学校の奏楽堂に作曲者の滝廉太郎の像があるのも縁を感じますね。



FOUNDATION FOR CULTURAL HERITAGE AND ART RESEARCH

公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団